

令和7年度第1回長崎市公民館運営審議会の審議結果について

1 日 時 令和7年9月29日（月）13時30分から15時15分まで

2 場 所 長崎市役所13階 中会議室

3 出席者 委 員 9人中8人出席

公民館長 6名出席

事務局 生涯学習企画課長、同課地域学習係長、同課職員2人

4 議事内容

(1) 令和6年度公民館の取組概要について

ア 事務局からの説明

公民館、文化センターの数は1減。公民館、文化センターの利用者総数はここ3年間増加傾向にある。各館の講座開設状況には大きな変化は見られていない。

イ 各公民館、文化センターから

(ア) 中央公民館では、長崎をテーマにした講座を毎年行っている。今年は被爆80周年の年であるため、平和に対しての様々な講座を実施していきたい。受講生からのリクエストが多いものに、まち歩き講座がある。現地に足を運び、本物を見るといった講座を行っている。他には、夏休みの子ども向け講座では、親子で一緒に何かを作るといった体験型の講座が大変喜ばれている。

(イ) 東公民館では、コロナ前は12～13万人程度の利用者がいたが、令和2年度に半減し、現在10万人までに回復した状況である。その中でも小中学生の自主学習利用者が6,500人程度いる。令和6年度から現川焼きの講座が復活した。定員が少ないため倍率が高くなり参加できない方には申し訳ない。

(ウ) 西公民館では、利用者はコロナ後から回復傾向にあるが、コロナ前までの数には戻っていない。図書館の利用者がコロナ前と比べて少ないところが影響している。講座については、西公民館の特徴の一つとして男性限定の料理教室を行って

おり、いつも定員を超える申し込みがある。他に手作りパン講座への申し込みも多く、夏休みの講座は定員の2倍を超える申し込みがあったため、急ぎよ追加の講座を開設しニーズに応えるよう柔軟に対応をした。

(エ)北公民館では、北公民館とチトセピアホール、市民活動センターの3つの連携運営が大きな特徴である。一つの施設を訪れた利用者に別の施設にも立ち寄ってみようと思えるような横断的な利用となることが一つのポイントであると考えている。社会主事講習講座を開いており、これからの公民館を担っていく人材の育成も大切にしている。子どものための居場所として、講座を開設し、図書館もあり自主スペースとして使ってもらうなど、子どもに開かれた存在でありたいと思っている。

(オ)野母崎文化センターでは、利用者のその他の項目が突出して多いのは、恐竜博物館に隣接している施設であり、博物館の企画展に合わせて様々なイベントを文化センターでタイアップして実施しているからである。講座の開設については、特に夏休みに子どもたちが楽しめるような講座を企画している。また、活水女子大学と連携して地域の子育て支援という視点で講座を行っている。外には自然豊かなパークがあり、花もたくさん咲いているという環境を生かした、例えば花の育て方講座などにも取り組んでいきたい。

(カ)琴海文化センターでは、スラックライン体験教室がある。これは琴海地区にプロの方が移住してこられたという情報をつかみ講座の依頼をしてみたことから実現したものである。夏休みの講座は、子どもたちの夏休みの宿題とリンクした内容にできるようにしていきたいと考えている。そば打ち体験やおいしいコーヒーの入れ方の講座が好評である。

(2)その他

公民館貸室使用料の見直しについて報告

5 主な意見・質疑等

(1) 東公民館から、子どもたちの学習スペースの利用について報告があったが、子どもたちにはこのようなスペースが必要だと感じている。閉館時間が17時の館もあるが、夜の時間まで利用できるようにしてほしいというのが保護者にはあるのではないかと思う。

→夏休みに部屋を開放したが、実際はあまり利用されていない現状もあった。

ニーズが高まるようであれば、人員体制など整理する必要がある

(2) 公民館を利用する子どもたちのマナーが悪いとの報告もあったが、公民館でマナーも学ぶことも大事である。

(3) 家で勉強することも大事であると感じる面もあるが、子どもたちの過ごし方も多様化しており、生活リズムも変わり、場所も求められている。誰か大人の目がある居場所は、自習だけでなく、対面での活動や文化的な活動などに触れる機会が増えていくことも公民館に求められている。

(4) 北公民館で、職員の方が社会教育主事講習受講にトライしたことについて、公民館職員の人材育成について課題をしっかりと受け止め、取り組まれていると感じた。

(5) 公民館の事業として、乳幼児を対象とした、親子で出かけられる場としても期待したい。

(6) 育児世代を対象とした講座を行ったが、応募が少なかった。ニーズのある方への情報提供方法はないか。

→乳幼児は子育て支援センターなどで情報を集めるので、情報を投げかけるといいのではないか。

(7) 定員に満たない講座などもあるのか、また逆に応募者が多いときはどう対応されているのか。

→定員に満たない場合は募集期間を延ばしている。多いときは講師の都合や会場の都

合がつけば、回数を増やすなど取り組んでいる。

(8) 需要と供給のバランスを調整しながら取り組んでいただきたい。また需要がないとやめるというのではなく、人材育成や人材発掘という視点も大事に情報をキャッチして取り組んでほしい。